

第 25 期 第 3 回環境学委員会 環境思想・環境教育分科会 議事要旨

日時：2021 年 7 月 2 日（金）10 時 30 分～12 時 30 分

会場：オンライン会議

参加者（敬称略・五十音順）：井上真，井上真理子，北村友人，工藤由貴子，河野哲也，小崎隆，関礼子，豊田光世，日置光久，氷見山幸夫，馬奈木俊介，山口しのぶ

欠席：蟹江憲史

*委員 13 名中 12 名の出席により会議は成立した。

議 題 等

報告事項

1. 第 2 回議事録公開の確認

関委員長より、第 2 回議事録を公開した旨、報告があった。

2. 環境教育の思想的アプローチ小委員会

関委員長より、5 月 27 日に設置が承認され、6 月 24 日に発令となった旨報告があった。

3. 学術フォーラムの開催について

7 月 3 日（土）に開催される学術フォーラム「気候変動による地球環境の緊急事態に社会とどう立ち向かうのか」に、本分科会からは工藤委員が話題提供を行う旨、報告があった。

4. 今期提言の発出についての情報交換

7 月 8 日に開催される日本学術会議の情報交換会「コロナ禍をふまえた学術と教育現場の連携について」（仮）に本分科会の代表として関委員長が参加する旨、報告があった。

審議事項

以下 3 件の話題提供にもとづき、学校での環境教育の実施状況や制度的位置づけなどについて状況を整理するとともに、意見交換を行った。

【話題提供 1】「学習指導要領の改訂と学力観の変遷」（日置光久委員）

【話題提供 2】「野外教育と教育実践、教育活動の意義-コロナ禍をふまえて」

（土方圭氏・明治大学法学部専任講師，日本野外教育学会理事）

【話題提供 3】「学校教育と農業教育・森林教育の関わり～「学習指導要領」改訂にあわせて」（井上真理子委員）

意見交換では、以下の点が指摘された。

- ・ 体験から展開する思考や言語化のプロセスが、学校教育では重視されるため、学びを体

験と認知の往還のなかで捉えていくことが重要である。

- コロナ禍において体験や野外での取り組みの意義が改めて問われており、そうした思索を通して環境教育の意味づけが改めてなされていく。
- 学校教育と課外教育は、別のシステムとして捉えられがちだが、それらの連続性を捉えていくことが、環境教育の特徴を理解するうえで重要である。
- コロナ禍における体験を伴う環境教育に関し、学習指導要領と関連付けながら、提言をまとめていく方向性を確認した。